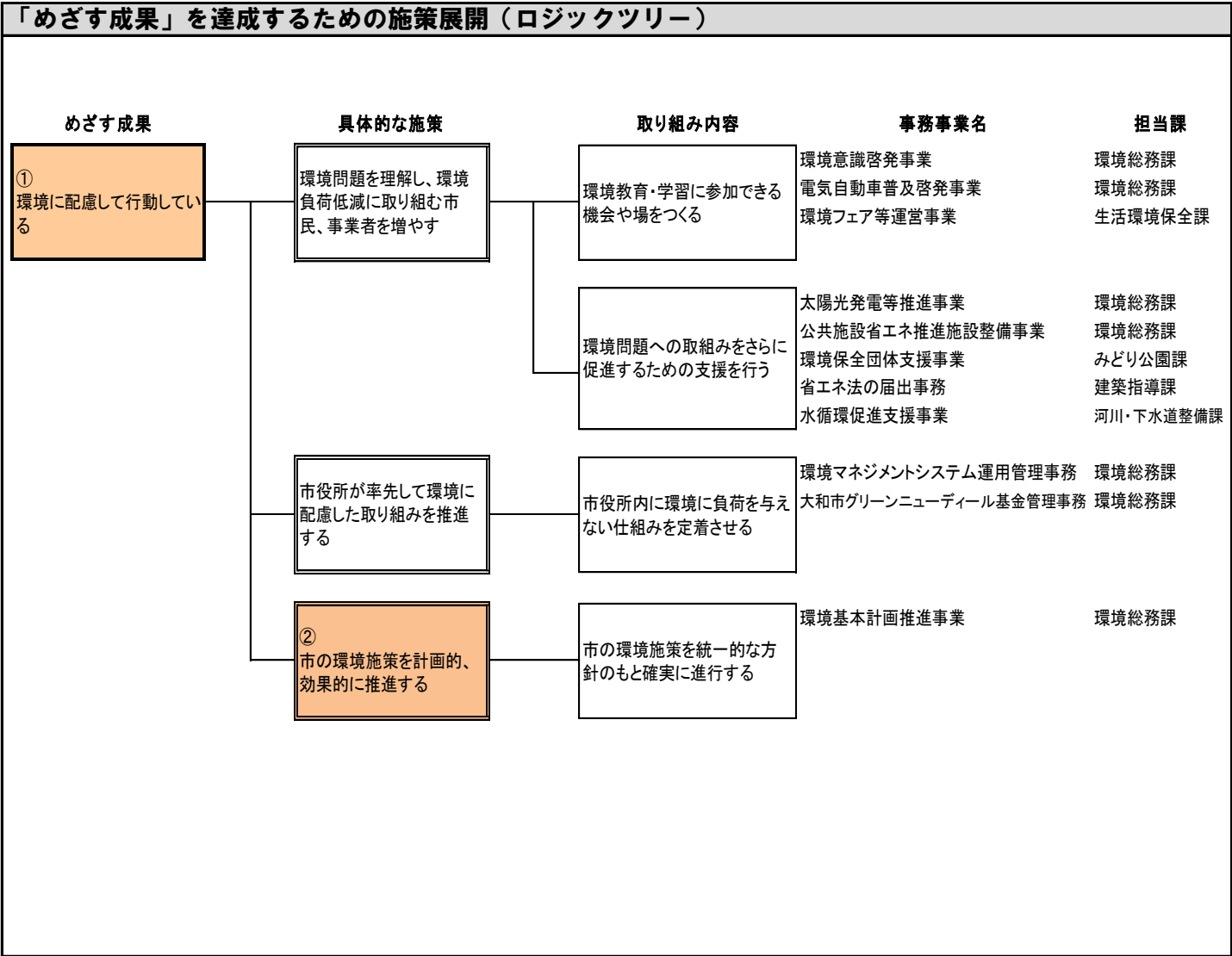


「めざす成果」の達成に向けた進行管理シート		
4－1－4 環境に配慮して行動している		
総合計画体系	健康領域・基本目標	まちの健康・環境を守り育てるまち
	個別目標	環境への負荷を減らす
	めざす成果	環境に配慮して行動している
		市民、事業者、行政が環境問題を認識し、環境への負荷軽減に配慮した行動をとっています。



総合計画掲載指標①		総合計画掲載指標②	
環境に配慮している人が多いと思う市民の割合		1990年度と比較した二酸化炭素排出量の増減	
計画策定時 現状値	45.9%	計画策定時 現状値	110.2%
実績値 (H21)		実績値 (H21)	106.3%
中間目標値 (H23)	57.0%	中間目標値 (H23)	97.0%
目標値 (H25)	67.0%	目標値 (H25)	91.0%

「めざす成果」の達成に向けた進行管理シート

主な取り組み内容	【環境問題を理解し、環境負荷低減に取り組む市民、事業者を増やす】 ・クールアースデーなどの環境配慮行動について、説明会の開催のほか広報やホームページを通じた広報活動を行い、環境負荷低減に対する取組みの普及啓発に努めました。また、やまとみどりの学校プログラム等を活用し、緑のカーテンの設置や水生生物の観察などを通じて環境教育を支援しました。 ・購入した電気自動車を活用し、環境フェアでの体験乗車会及び小学校の環境学習で紹介・体験乗車を行い、低公害・省エネ自動車の周知・普及に努めました。 ・住宅用太陽光発電システムの設置費や充電に対する補助制度により、自然エネルギーの活用の普及啓発に努めました。 ・国の公共施設省エネ・グリーン化推進事業を活用し、高効率照明、太陽光発電システム等省エネ推進施設の整備を行いました。 【市役所が率先して環境に配慮した取り組みを推進する】 ・環境マネジメントシステム「やまとEMS」の活用により、市役所や市の事業活動における省エネ活動による環境負荷の低減に努めるとともに、内部監査制度や環境セミナーなど、職員に対する環境啓発に努めました。 ・環境ポスターコンクールの対象を小学校低学年まで広げ、1年生から6年生までとし、環境美化の意識啓発を行いました。 ・環境フェアについては、同時期に開催されている「産業フェア」への参加によって、運営面での効率化を図りました。

構成事業に対する考え方 （事業の量及び実施手法）	・環境配慮指針に示す配慮行動を市民、事業者及び市が連帯して取り組み、環境負荷を低減し、地球温暖化対策の推進を図ります。 ・次世代を担う子ども達に地球温暖化対策等の環境教育を実施することで、その家庭への波及効果を含め、将来に良好な環境を引き継ぐことに努めます。 ・太陽光発電システム及び太陽熱利用機器に対する補助金など経済的な支援により、新技術・省エネ設備の導入を加速し、低炭素都市の実現を目指します。 ・公共施設における省エネの実践と、新技術を率先して導入することで、市民及び事業者への普及・拡大を促進します。
-----------------------------	--

今後の展開方針		
注）例年どおりの事業展開を予定している事務事業については、特段の記載をしていません。		
新規事業の立案		（該当する事務事業）
既存事業の拡充	電気自動車活用による環境意識啓発事業を推進します。	（該当する事務事業） 環境意識啓発事業
事業の廃止・縮減	電気自動車の購入や急速充電器の設置が完了したため、当該事業を廃止します。普及啓発の取り組みについては、環境意識啓発事業により推進します。	（該当する事務事業） 電気自動車普及啓発事業
事業の効率化		（該当する事務事業）
その他見直し	H23年度で終了する太陽光発電売電補助制度の代替として、増加傾向にある家庭系の温室効果ガス排出対策における省エネ・新エネを推進するための補助制度を検討する必要があります。	（該当する事務事業） 太陽光発電等推進事業

施策への提言	
総合計画審議会記入欄	・太陽光発電システムの導入にあたっては、設置費用が高額ですが、公共施設への導入を検討していく必要があると考えます。また、太陽光発電システムの設置に対する補助金について、積極的に市民への情報提供を行い、環境に対する負荷の軽減に協力してもらえるように努めてください。